令和５年度
かごしまルネッサンスアカデミー
履修証明プログラム

「稲盛経営哲学プログラム」（第１２期）
募集要項

鹿 児 島 大 学

目　次

Ⅰ．　はじめに・・・ 1

Ⅱ．　募集について・・ 1

　１．募集人員・・・ 1

　２．受講方法・・・ 1

　３．受講のための資格・・・ 1

　４．受講料・・・ 1

　５．教科書・・・ 1

Ⅲ．　申請手続き・・・ 2

　１．申請期間・・・ 2

　２．申請方法・・・ 2

　３．申請書類・・・ 2

　４．申請書類の提出先・・・ 2

　５．申請上の留意事項・・・ 2

　６．選抜方法・・・ 2

　７．受講者の決定・・ 2

Ⅳ．　カリキュラム・修了要件・・ 3

　１．開講式・・・ 3

　２．開講期間・・・ 3

　３．修了式・・・ 3

　４．開講場所・・・ 3

　５．修了要件・・・ 3

Ⅴ．　その他・・・ 3

　１．実施体制について・・・3

　２．修了証明について・・・ 3

　３．単位の授与の有無について・・3

　４．新型コロナウイルス感染症拡大時の対応について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

　５．お問合わせ先・・ 3

稲盛経営哲学プログラム開講日程・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4～5

稲盛経営哲学プログラムシラバス・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6～15

申請書類一式・・16～18

かごしまルネッサンスアカデミー履修証明プログラム
「稲盛経営哲学プログラム」第１２期　募集要項

Ⅰ．はじめに

「稲盛経営哲学プログラム」は、社会人を対象に、「稲盛経営哲学」を学んで頂くことにより、進取の精神を涵養し、経営者や地域社会のリーダーとして活躍する人材を育成していくことを目的に、開講しております。

本プログラムでは、『稲盛経営哲学の成り立ち』、『稲盛和夫の歩み』、『稲盛和夫の経営問答』、『実学―経営と会計―』、『アメーバ経営論』、『実践経営論』、『稲盛フィロソフィ』、『組織運営とリーダー論』の 8 つの科目について、計 90 時間の講義を体系的に学んでいただきます。

第 12 期も、毎年度好評の『実践経営論』を引き続き開講し、実際の経営の現場で活躍されている方からの講義を計画し、稲盛経営哲学の理論と実践の両面について学んで頂ける充実した内容となっており、稲盛アカデミー客員教授による『稲盛フィロソフィ』では、全国の稲盛研究の最高峰の方々にそれぞれの立場から講じて頂きます。また、昨年度から、組織を運営するにあたってリーダーシップの持つ重要性について学ぶ『組織運営とリーダー論』も新たに開講しています。

本募集要項では、稲盛経営哲学プログラム第 12 期受講生を以下の要領で募集します。

Ⅱ．募集について

１．募集人員

稲盛経営哲学プログラム　：35名（定員を超える応募があった場合は選考を行います）。

２．受講方法

本プログラムは対面式講義を基本とし、新型コロナウイルス感染対策に十分配慮した上でプログラムを実施いたします。但し、新型コロナウイルス感染症関連により大学外での受講を希望する方や宿泊を伴う遠方の方は、Zoom によるオンライン受講が可能です。その場合は、P.16 の受講申請書の「ご希望の受講方法」欄にて「遠隔式（Zoom 使用）」を選択ください。

３．受講のための資格

高校卒業又は高校卒業と同等と認められる者

４．受講料

90,000円（税込）

※その他、実習等に係る保険料等をご負担頂く場合があります。

※車での通学（本校への入構）を希望される場合は、別途実費（7,900円）負担となります（鹿児島大学交通規則に基づく審査を経て、入構証及びパスカードを発行します）。

５．教科書（ ※ 別途実費負担となります。）

『稲盛和夫の実学－経営と会計－』稲盛和夫 著（日本経済新聞社）

『アメーバ経営―ひとりひとりの社員が主役―』稲盛和夫 著（日本経済新聞社）

Ⅲ．申請手続き

１．申請期間

（１）募集期間：令和5年5月29日（月）～~~令和5年7月28日（金）~~ 8月1日（火）必着

※延長しました！

２．申請方法

（１）申請書類の入手方法：

申請書類は本誌15頁～18頁にございます。

稲盛アカデミーホームページからダウンロードすることもできます。

https://www.inamori.kagoshima-u.ac.jp/

なお、募集要項・申請書類一式の送付を希望される方は、事務室へ直接お問合せください。

（２）申請書類の提出方法

郵送（簡易書留、レターパック）のみといたします

（**※令和5年~~7月28日（金）~~ 8月1日（火）必着**）。

３．申請書類

① 提出書類チェックシート

② 様式1 受講申請書

③ 様式2 履歴書

④ 様式3 受講希望理由書

４．申請書類の提出先

〒890-0065 鹿児島市郡元1－21－30（稲盛アカデミー棟2階）

鹿児島大学稲盛アカデミー事務室　行

５．申請上の留意事項

（１）申請書類を郵送する場合は**「簡易書留」または「レターパック」**とし、封筒の表に**「稲盛経営哲学プログラム受講申請書在中」と朱書き**してください。

（２）申請書類の不備な物は受け付けられませんので、記載には十分ご留意ください。

（３）虚偽の記載があったものは、受講許可を取り消す場合があります。

６．選抜方法

受講者の選抜は、受講資格を満たしているか確認のうえ決定します。定員を超える応募があった場合は書類選考を行います。

７．受講者の決定

令和5年8月末までに本人へ通知（文書発送）します。

Ⅳ．カリキュラム・修了要件

１．開 講 式：令和5年9月9日（土）9時30分～

２．開講期間：令和5年9月9日（土）～ 令和6年2月17日（土）※予備日を含む

３．修 了 式：令和6年3月9日（土）10時30分～（予定）

４．開講場所：鹿児島大学稲盛アカデミー棟講義室

５．修了要件：

総時間数90時間の講義を履修し、かつ、所定の課題についてのレポートを提出し、合格と判断されること（鹿児島大学の特別の課程における履修証明プログラムに関する規則に準じる）。

※欠席された回については、全講義時間数の30時間までは、講義を撮影した動画（インターネットまたはDVD）をご視聴の上、その回のフィードバックシートを提出していただけましたら、出席と認めます。

Ⅴ．その他

１．実施体制について：

稲盛アカデミーにおいて、本プログラムの編成及び実施、成績評価並びに履修証明書の交付を行います。

２．修了証明について：

定められた修了要件を満たした方には履修証明制度に基づき「履修証明書」を交付します。

３．単位の授与の有無について：

本履修証明プログラム修了者への単位の授与はありません。

４．新型コロナウイルス感染症拡大時の対応について

実施期間中に新型コロナウイルス感染症が拡大した場合、Zoomによるオンライン講義への移行や、開講日程が変更される場合があります。予めご了承下さい。

５．お問い合わせ先：

鹿児島大学稲盛アカデミー事務室
〒890-0065 鹿児島市郡元1－21－30（稲盛アカデミー棟2階）
Tel: 099-285-3751　E-mail：inamori@kuas.kagoshima-u.ac.jp
8時30分～17時15分（土日・祝祭日は除く）

令和5年度 履修証明プログラム「稲盛経営哲学プログラム」第12期 開講日程

回	開講日	開講時間	時間
開講式・ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ	9月9日（土）	9：30 ～ 10：20	
1		10：30 ～ 12：00	1.5
		12：50 ～ 14：20	1.5
		14：30 ～ 16：00	1.5
		16：10 ～ 17：40	1.5
2	9月23日（土）	9：30 ～ 11：00	1.5
		11：10 ～ 12：40	1.5
		13：30 ～ 15：00	1.5
		15：10 ～ 16：40	1.5
3	9月30日（土）	9：30 ～ 11：00	1.5
		11：10 ～ 12：40	1.5
		13：30 ～ 15：00	1.5
		15：10 ～ 16：40	1.5
4	10月14日（土）	9：30 ～ 11：00	1.5
		11：10 ～ 12：40	1.5
		13：30 ～ 15：00	1.5
		15：10 ～ 16：40	1.5
5	10月21日（土）	9：30 ～ 11：00	1.5
		11：10 ～ 12：40	1.5
		13：30 ～ 15：00	1.5
		15：10 ～ 16：40	1.5
6	10月28日（土）	9：30 ～ 11：00	1.5
		11：10 ～ 12：40	1.5
		13：30 ～ 15：00	1.5
		15：10 ～ 16：40	1.5
7	11月18日（土）	9：30 ～ 11：00	1.5
		11：10 ～ 12：40	1.5
		13：30 ～ 15：00	1.5
		15：10 ～ 16：40	1.5
8	11月25日（土）	9：30 ～ 11：00	1.5
		11：10 ～ 12：40	1.5
		13：30 ～ 15：00	1.5
		15：10 ～ 16：40	1.5
9	12月2日（土）	9：30 ～ 11：00	1.5
		11：10 ～ 12：40	1.5
		13：30 ～ 15：00	1.5
		15：10 ～ 16：40	1.5

回	開講日	開講時間	時間
10	12月9日（土）	9：30　～　11：00	1.5
		11：10　～　12：40	1.5
		13：30　～　15：00	1.5
		15：10　～　16：40	1.5
11	12月16日（土）	9：30　～　11：00	1.5
		11：10　～　12：40	1.5
		13：30　～　15：00	1.5
		15：10　～　16：40	1.5
12	12月23日（土）	9：30　～　11：00	1.5
		11：10　～　12：40	1.5
		13：30　～　15：00	1.5
		15：10　～　16：40	1.5
13	1月6日（土）	9：30　～　11：00	1.5
		11：10　～　12：40	1.5
		13：30　～　15：00	1.5
		15：10　～　16：40	1.5
（予備日）	2月3日（土）	9：30　～　11：00	1.5
		11：10　～　12：40	1.5
		13：30　～　15：00	1.5
		15：10　～　16：40	1.5
14	2月10日（土）	9：30　～　11：00	1.5
		11：10　～　12：40	1.5
		13：30　～　15：00	1.5
		15：10　～　16：40	1.5
15	2月16日（金）	9：30　～　11：00	1.5
		11：10　～　12：40	1.5
		13：30　～　15：00	1.5
		15：10　～　16：40	1.5
（予備日）	2月17日（土）	9：30　～　11：00	1.5
		11：10　～　12：40	1.5
		13：30　～　15：00	1.5
		15：10　～　16：40	1.5
修了式	3月9日（土）	10：30　～　11：00	

※　開講日は土曜日が主ですが、2月16日の学外研修日のみ金曜日となっております。

※　講義名の入ったスケジュールは開講式当日に配付いたします。

※　講義日程の計画は変更される場合があります。予めご了承ください。

01【科目名】稲盛経営哲学の成り立ち

【担当教員】武隈 晃・吉田 健一
【時 間 数】3.0 時間（2 回×90 分）
【科目概要】

本講義は、「稲盛経営哲学履修証明プログラム」を開始するに当り、稲盛氏の生い立ちや、氏が歩んで来た道程を最初に説明する。いわば、本講義はその後の講義を受講して頂くにあたっての入門編である。

本プログラムの中では「稲盛フィロソフィ」という言葉は随所に出てくるが、そもそも「稲盛フィロソフィ」の特徴は何であるか、「稲盛フィロソフィ」はどのような諸々の要素から構成されているのか、また、どのような経緯を経て、今日の「稲盛フィロソフィ」は成立するに至ったのかについて解説する。

【学習目標】

1. これから「稲盛経営哲学履修証明プログラム」を学んでいくにあたって、稲盛和夫氏の経営哲学の基本（どのような特徴があり、どのような内容から構成されているのか）について理解する。
2. 稲盛氏のこれまでの歩みについての概略を理解し、この後の講義を受けるにあたっての基本的な知識を身につける
3. 稲盛氏の経営哲学がどのような経緯を経て成り立ったのかについて、今後の講義を受けるにあたっての基礎知識を得る。

【開設予定講習】

1. 稲盛経営哲学の成り立ち（1）	講義	経営哲学と稲盛フィロソフィ
2. 稲盛経営哲学の成り立ち（2）	講義	稲盛和夫氏の今日までの歩みについて 稲盛経営哲学を構成する主要な要素について

【教科書】

・ 講義時に資料を配布致します。

02【科目名】稲盛和夫の歩み

【担当教員】吉田 健一
【時 間 数】9.0 時間（6 回×90 分）
【科目概要】

本講義では稲盛和夫氏の今日までの歩みを丁寧に解説する。今日、稲盛氏の歩みを知るには本人の自伝『稲盛和夫のガキの自叙伝』(2002 年・日本経済新聞社)、加藤勝美氏による評伝『ある少年の夢―稲盛和夫創業の原点―』（昭和 54 年・現代創造社）がある。また米国ケミカル・ヘリテージ財団による『稲盛和夫オーラルヒストリー』なども参考になる。だが、『ガキの自叙伝』は 2004 年まで、『ある少年の夢』は昭和 54 年までの記述しかない。

本講義では今日までの氏の歩みを全て網羅する。講義の中では企業家としての面のみならず、盛和塾や稲盛財団などの社会貢献活動や総合雑誌での社会的発言、著書とその内容、思想的発展がどの時期になされて行ったかなども丁寧に見ていく。

【学習目標】

1. 今日までの稲盛氏の歩みを理解する。
2. 稲盛氏の半生と日本社会のその時々の時代背景を理解する。
3. 稲盛氏の企業経営者と社会活動家としての 2 つの面を理解する。

【開設予定講習】

1. 鹿児島時代の稲盛氏の事績（1932 年～1954 年）	講義	誕生から幼少期の稲盛氏の精神形成について講義した後に、第 2 次大戦後直後から、鹿児島大学卒業までの事績を解説する。
2. 松風工業入社から京都セラミック起業まで（1955 年～1959 年）	講義	稲盛氏が京都に行き社会人になってから、京都セラミックの起業を決意するまでの事績を解説。
3. 京セラの創業直後（1959 年～1964 年）	講義	京セラ創業直後の状況について解説する。当時の経営の状況などを概観する。
4. 京セラの経営と発展（1965 年～1985 年）	講義	京セラ創業から上場企業になるまでの歩みについて概観した後、京セラの発展過程について解説する。事業の多角化や合併について概観する。
5. 京都賞の設立、第二電電の設立ー（1981 年～1987 年ー）	講義	第二の創業といわれる、第二電電（現：KDDI）の創業、京都賞の設立などについて概観する。
6. 公職・世界的視野での活動、財界活動、盛和塾、KDDI の誕生、得度（1980 年～2008 年）、大和の家、日本航空の再建、各種の受賞・名誉博士号（1994 年～2013 年）	講義	稲盛氏の企業家としての活動以外の、諸々の社会貢献活動について解説した後に、DDI から KDDI に至る過程、通信業界の変化、盛和塾の誕生について、社会福祉に関する稲盛氏の業績、日航の再建過程について概観する。まとめとして、稲盛氏が受けた賞や著作などについても概観する。

【参考文献】

・ 稲盛和夫『稲盛和夫のガキの自叙伝』（日経ビジネス文庫・2004 年）
・ 稲盛和夫『アメーバ経営－ひとりひとりの社員が主役－』（日本経済新聞社・2006 年）
・ 稲盛和夫『人生の王道－西郷南洲の教えに学ぶ－』（日経 BP 社・2007 年）
・ 京セラ株式会社編『果てしない未来への挑戦－京セラグループ 50 年の歩み－』（京セラ株式会社・2010 年）
・ 米国ケミカル・ヘリテージ財団編『稲盛和夫オーラルヒストリー』（ケミカル・ヘリテージ財団・2012 年）
・ 加藤勝美『ある少年の夢　稲盛和夫創業の原点』（改訂版・出版文化社・平成 16 年）
・ 吉田健一「稲盛和夫の少年時代と鹿児島の精神教育」（鹿児島大学稲盛アカデミー研究紀要第 2 号所収・2010 年）
・ 吉田健一「鹿児島時代の稲盛和夫―幼年時代から学生時代まで―」（鹿児島大学稲盛アカデミー紀要第 3 号所収・2012 年）
・ 吉田健一「稲盛和夫の政治思想―その特徴と理想―」（鹿児島大学稲盛アカデミー紀要第 3 号所収・2012 年）
・ 吉田健一「近代日本の経営思想とその特徴―労動観・利益観を中心として―」（鹿児島大学稲盛アカデミー紀要第 4 号所収・2013 年）

※ 参考文献は、講義中に紹介予定です。購入する必要はありません。
※ 吉田の著作については適宜、配布する予定です。

03【科目名】稲盛和夫の経営問答

【担当教員】吉田 健一・劉 美玲・園田 博昭
【時 間 数】4.5 時間（3 回×90 分）
【科目概要】
本講義は、開講以来の本プログラムの学習内容を振り返るとともに、前半部分では稲盛氏と盛和塾生の経営問答に学ぶ。後半では具体的な経営者の悩みや問いに、稲盛氏ならどのように回答するかというテーマで、受講者間のディスカッションによるワークショップを行い、吉田、劉もファシリテーターとして参加し共に議論をする。
【学習目標】
1. 開講以来の講義内容を振り返り、疑問点を解消する。
2. 『実学・経営問答―人を生かす―』や『稲盛和夫の経営塾―高収益企業のつくり方―』を学んだ後、自分が稲盛氏なら企業経営者の悩みにどのような観点から助言するかを考えてみる。

【開設予定講習】

1. 稲盛経営哲学の経営問答（1）	講義 ワークショップ	経営問答の事例を解説する。 受講者間でのディスカッション。
2. 稲盛経営哲学の経営問答（2）		
3. 稲盛経営哲学の経営問答（3）		

【教科書】
稲盛和夫『実学・経営問答―人を生かす―』（日本経済新聞社・2008 年）、稲盛和夫『稲盛和夫の経営塾―高収益企業のつくり方―』（日経ビジネス文庫・2007 年）を想定していますが、資料はこちらで準備いたします。

04【科目名】実学ー経営と会計ー

【担当教員】吉田 健一・劉 美玲
【時 間 数】10.5 時間（7 回×90 分）
【科目概要】
本講義は稲盛和夫氏の「哲学」に対して「実学」に焦点を当てたものである。本講義では稲盛氏の著書『稲盛和夫の実学―経営と会計―』（1998 年・日本経済新聞社）について、講義する。稲盛氏の会計思想がどのように誕生したのか、稲盛氏が会計において重視していることは何かについての理解を深めるために、テキストを熟読していく。
【学習目標】
1. 稲盛氏の会計学の思想と手法を理解する。
2. 稲盛氏の経営手法についての理解を通じ、他の講義で扱うフィロソフィ（哲学）と「実学」の関係を体系的に理解する。

【開設予定講習】

1. 実学―経営と会計―（1）	講義	序章：私の会計学の思想
2. 実学―経営と会計―（2）	講義	第 1 章：キャッシュベースで経営する
3. 実学―経営と会計―（3）	講義	第 2 章：一対一の対応を貫く
4. 実学―経営と会計―（4）	講義	第 3 章：筋肉質の経営に徹する
5. 実学―経営と会計―（5）	講義	第 4 章：完璧主義を貫く
6. 実学―経営と会計―（6）	講義	第 5 章：ダブルチェックによって会社と人を守る
7. 実学―経営と会計―（7）	講義	第 6 章：採算の向上を支える

【教科書】
・ 稲盛和夫『稲盛和夫の実学ー経営と会計ー』（日本経済新聞社・1998 年）

05【科目名】アメーバ経営論

【担当教員】劉 美玲・吉田 健一・園田 博昭
【時 間 数】18.0 時間（12 回×90 分）
【科目概要】
　本講義は京セラが創業間もなく次第に規模を大きくしていく過程で、大きくなった組織をどのようにコントロールしたらいいのかという稲盛和夫氏の悩みから閃いた経営管理手法であるアメーバ経営について、会社を小集団の組織に分けて独立採算制で管理するための経営管理の仕組みと、その運営にはベースとして経営哲学が必須であり全員参加の経営がもつ力の大きさについて学ぶ。また、受講者の理解を深めるために京セラ鹿児島国分工場を訪問する現場研修を企画し、組織力の強さの根源を理解する。
【学習目標】
1. アメーバ経営が生まれた背景を理解する。
2. 時間当たり採算表を理解する。
3. アメーバ経営を支える経営哲学の重要性を理解する。

【開設予定講習】
（ ※　講義の計画の内容や順番が変更される場合があります。 予めご了承ください。）

1. アメーバ経営　(1)	講義	アメーバ経営の誕生、目指す三つの目的を解説する。
2. アメーバ経営　(2)	講義	経営哲学の必要性について解説する
3. アメーバ経営　(3)	講義	アメーバの組織づくりについて解説する。
4. アメーバ経営　(4)	講義	採算管理(1)：時間当たり採算表について解説する。
5. アメーバ経営　(5)	講義	採算管理(2)：収入、経費、時間の捉え方について解説する。
6. アメーバ経営　(6)	講義	マスタープランと月次予定について解説する。
7. アメーバ経営　(7)	講義	組織文化と稲盛経営哲学について解説する。
8. アメーバ経営　(8)	講義	アメーバ経営の導入について紹介する。
9. アメーバ経営　(9)	現場研修	京セラ株式会社鹿児島国分工場を訪問し、アメーバ経営の実践を学ぶ。※
10. アメーバ経営（10）		
11. アメーバ経営（11）		
12. アメーバ経営（12）		

【教科書】
・　稲盛和夫『アメーバ経営―ひとりひとりの社員が主役―』（日本経済新聞社・2006 年）
【参考文献】
・　稲盛和夫『稲盛和夫の実学―経営と会計―』（日本経済新聞社・1998 年）
・　アメーバ経営学術研究会編『アメーバ経営学―理論と実証―』（KCCS マネジメントコンサルティング株式会社・2010 年）

06【科目名】実践経営論

【責任教員】吉田 健一　【講義担当者】企業経営者等（鹿児島盛経塾に所属の経営者等）
【時 間 数】9.0 時間（6 回×90 分）
【科目概要】

本講義は、現役の企業経営者等による講義である。本講義では実社会において企業経営者等として活躍されている方々を講師に迎えオムニバス形式で講義を進める。

「経営」は理論や細かな知識、その大元となるフィロソフィが重要であることは勿論であるが、常に経済状況の変動する実社会における実践そのものである。この「稲盛経営哲学プログラム」においては、より実践性の高いプログラムを目指しており本講義は、そのような考え方から開発されたものである。

本講義の講師はいずれも稲盛和夫氏に経営を学ぶ盛和塾（現：盛経塾）のメンバーであり、いわば「稲盛経営哲学」を実際の経営等で実践されている方々である。本講義では、書籍や机上での学びをどうすれば、実社会で実践できるのかという観点からの講義を行う。受講生と経営者等の質疑応答を中心とする「実践経営問答」も想定している。

【学習目標】

1. 現場での経営者等の苦労や経営判断をする時の基準、従業員の人心掌握術のコツや各々の経営者の哲学に触れる。
2. 担当講師との質疑応答やディスカッションを通じて、本当の経営実践に必要なものが何かを各自がつかみ取る。
3. 経営に携わる人もそうでない人も、講師の講義とその後の議論から、自分なりの価値基準を確立する。

【開設予定講習】

1. 実践経営論（1）	講義	現役企業経営者等による講義（1）
2. 実践経営論（2）	講義	現役企業経営者等による講義（2）
3. 実践経営論（3）	講義	現役企業経営者等による講義（3）
4. 実践経営論（4）	講義	現役企業経営者等による講義（4）
5. 実践経営論（5）	講義	現役企業経営者等による講義（5）
6. 実践経営論（6）	講義	現役企業経営者等による講義（6）

07【科目名】稲盛フィロソフィ

【担当教員】日置 弘一郎・髙 巖・三矢 裕・青山 敦・粕谷 昌志
【時 間 数】27.0 時間（18 回×90 分）
【科目概要】

本講義は鹿児島大学稲盛アカデミーの客員教授 5 名によるオムニバス形式の講義である。本講義では、1 人の客員教授に 1 つのテーマで講義して頂くことを想定している。

それぞれの客員教授は稲盛研究の日本における最高峰の専門家である。客員教授は経営学、アメーバ経営論、組織論、企業会計論、社会哲学、経営人類学などの専門家であり、様々な学問分野から稲盛フィロソフィはどのように見ることが出来るのかについて幅広く講義して頂く。

【学習目標】

1. それぞれの専門家から見た稲盛経営哲学の解釈や意味を理解する。
2. 稲盛和夫氏の経営哲学が経営学の専門家から、どのように評価されてきたのか、稲盛氏のフィロソフィに関心を持って研究してきたのかについて、その意味を理解する。

【開設予定講習】

1. 稲盛フィロソフィ (1)	講義	客員教授による講義 (1)
2. 稲盛フィロソフィ (2)	講義	客員教授による講義 (2)
3. 稲盛フィロソフィ (3)	講義	客員教授による講義 (3)
4. 稲盛フィロソフィ (4)	講義	客員教授による講義 (4)
5. 稲盛フィロソフィ (5)	講義	客員教授による講義 (5)
6. 稲盛フィロソフィ (6)	講義	客員教授による講義 (6)
7. 稲盛フィロソフィ (7)	講義	客員教授による講義 (7)
8. 稲盛フィロソフィ (8)	講義	客員教授による講義 (8)
9. 稲盛フィロソフィ (9)	講義	客員教授による講義 (9)
10. 稲盛フィロソフィ (10)	講義	客員教授による講義 (10)
11. 稲盛フィロソフィ (11)	講義	客員教授による講義 (11)
12. 稲盛フィロソフィ (12)	講義	客員教授による講義 (12)
13. 稲盛フィロソフィ (13)	講義	客員教授による講義 (13)
14. 稲盛フィロソフィ (14)	講義	客員教授による講義 (14)
15. 稲盛フィロソフィ (15)	講義	客員教授による講義 (15)
16. 稲盛フィロソフィ (16)	講義	客員教授による講義 (16)
17. 稲盛フィロソフィ (17)	講義	客員教授による講義 (17)
18. 稲盛フィロソフィ (18)	講義	客員教授による講義 (18)

08【科目名】組織運営とリーダー論

【担当教員】吉田 健一・劉 美玲・園田 博昭
【時 間 数】9.0 時間（6 回×90 分）
【科目概要】
本講義は、組織を運営するにあたってリーダーシップの持つ重要性について学ぶ。最初に、そもそも人はなぜ、組織を作るのか、組織の役割とは何であるのかの基礎理論を学び、次に、組織の運営に必要なリーダーシップの本質について学ぶ。その後、組織におけるリーダーシップの源泉とリーダーシップのもつパラドックスについて経営学の説明するところを学ぶ。さらにその知識を踏まえた上で稲盛和夫氏の重視する「リーダーの役割 10 ヵ条」について学ぶ。
また、本講義では PBL※の手法により、受講生の仕事上の悩みを解決するための実習も取り入れる。このことにより、前半の座学で学んだ知見を、日々の現実の仕事の場において役立たせるためには、どのような考え方や思考力や能力が必要かを伝授する。講義では稲盛和夫氏の講話の VTR も使用する。

【学習目標】
1. 組織は何のために存在するのか、組織の果たすべき役割の基礎的な知識を理解する。
2. 組織の運営におけるリーダーの役割の重要性を理解するとともに、リーダーシップの源泉とリーダーシップのもつパラドックスについて理解する。
3. その後、稲盛和夫氏の重視する「リーダーの役割 10 ヵ条」について理解する。さらに PBL の実習において、リーダーシップを発揮するためにはどうすれば良いのかを考え、各々の受講生の現実社会におけるリーダーシップを強化する。

【開設予定講習】

1. 組織運営とリーダー論（1）	講義	組織とは何か、リーダーシップの基礎
2. 組織運営とリーダー論（2）	実習	PBL（組織における 2 つのサイクル）
3. 組織運営とリーダー論（3）	講義	稲盛和夫氏の講話 VTR（組織論関係）
4. 組織運営とリーダー論（4）	講義	稲盛和夫のリーダー論（リーダーの役割 10 ヵ条）
5. 組織運営とリーダー論（5）	実習	PBL（リーダーシップ）
6. 組織運営とリーダー論（6）	講義	稲盛和夫氏の講話 VTR（リーダー論関係）

【教科書】
伊丹敬之・加護野忠男『ゼミナール　経営学入門』第 3 版（日本経済新聞出版社、1989 年）、桑田耕太郎・田尾雅夫『組織論』補訂版（有斐閣、2010 年）、稲盛和夫『実学・経営問答　人を生かす』（日本経済新聞出版社、2008 年）を使用しますが資料はこちらで準備いたします。

※ PBL とは課題解決型学習（Project Based Learning）のこと。自ら問題を発見し解決する能力を養うことを目的とした学習理論。正しい答えにたどり着くことが重要ではなく、答えにたどり着くまでの過程（プロセス）が大切であるという学習理論。近年の教育に多く取り入れられ効果を発揮している学習方法となっています。

提出書類チェックシート

受講希望コース	稲盛経営哲学プログラム
勤務先および役職名	
氏 名	

提 出 書 類	
□ 提出書類チェックシート（本用紙）	本用紙
□ 受講申請書	様式１
□ 履歴書	様式２
□ 受講希望理由書	様式３

※ 提出書類を確認の上、本状も提出願います。
※ 「簡易書留、レターパック」にて郵送願います。

様式１

令和　　年　　月　　日

令和５年度　かごしまルネッサンスアカデミー受講申請書

<table>
<tr><td colspan="2">受講希望コース</td><td colspan="2">稲盛経営哲学プログラム</td><td>写
真</td><td>(4.0cm×
3.0cm)</td></tr>
<tr><td>ふりがな</td><td colspan="2"></td><td colspan="3">生年月日（和暦）　・　年齢</td></tr>
<tr><td>氏　名</td><td colspan="2"></td><td colspan="3">昭和
平成　　年　　月　　日（　　歳）</td></tr>
<tr><td>ご自宅住所</td><td colspan="5">〒</td></tr>
<tr><td>電話番号</td><td colspan="2"></td><td>携帯電話番号</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>メールアドレス</td><td colspan="5"></td></tr>
<tr><td>連絡先等
（勤務先）</td><td colspan="5">〒
勤務先名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　役職名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿</td></tr>
<tr><td>電話番号</td><td colspan="5"></td></tr>
<tr><td colspan="2">通知文書等の送付先</td><td colspan="4">ご自宅住所　・　お勤め先住所</td></tr>
<tr><td colspan="2">ご希望の受講方法</td><td colspan="4">対面式受講　・　遠隔式受講</td></tr>
<tr><td colspan="2">入構車両パスカード購入希望</td><td colspan="4">有　・　無</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">緊急連絡先（本人以外）</td><td>氏　名</td><td></td><td>間　柄</td><td></td></tr>
<tr><td>電話番号</td><td colspan="3"></td></tr>
</table>

１．講義についてのお知らせやイベントのご案内、欠席された回の講義資料の送付などを事務室よりメール配信いたします。
添付ファイルの受信ができるメールアドレス（パソコン・スマートフォン・タブレット対応メールアドレス）を必ずご記入ください。

２．車での通学（本学への入構）を希望される場合は別途実費（7,900 円）負担となります。
（鹿児島大学交通規則に基づく審査を経て、入構許可証及びパスカードを発行します）

３．受講方法については、申請状況によって、ご相談させていただく場合があります。

４．申込みに際し、ご記入頂いた個人情報は、受講申請の確認、連絡、名簿作成、保険加入、受講者の統計以外の目的には使用いたしません。

様式２

履　歴　書

氏 名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

最終学歴	年　　月	卒業
職歴	年　　月	
	年　　月	
	年　　月	
	年　　月	
	年　　月	
	年　　月	
	年　　月	
	年　　月	
	年　　月	
	年　　月	
免許・資格	年　　月	
	年　　月	
	年　　月	
	年　　月	
	年　　月	
	年　　月	
	年　　月	

様式３

受講希望理由書

氏 名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

（A4 用紙１ページ以内）